

## 伊藤 敦(Atsushi ITO)個展 「"777"」



「777」-Pearl- 2007年

拝啓、益々ご清祥のこととお慶び申し上げます。

コマンドNが運営するプロジェクトスペースKANDADA(カンダダ)では、2007年9月28日(金)より、伊藤敦の13年ぶりの個展「"777"」を開催いたします。

伊藤は、自身がパチンコ依存症であった経験に基づき、1994年より廃材のパチンコ台を素材に制作を始めました。「パチンコ」は大正時代に米国から輸入された「コリント・ゲーム」がルーツで、以来わが国特有の娯楽・遊戯として大衆に親しまれてきました。しかし30兆円(国民総医療費・貿易黒字以上)を超える産業に発展した現在、特殊景品による換金行為・中毒性・違法廃棄等の多くの社会問題を引き起こしています。また多くのパチンコ店は、中国系・韓国・北朝鮮系の経営者によって運営されています。

その驚くほど厳格で緻密な法令による規制(年齢制限・出玉規制・交換率等)によって、「パチンコ」は優れた日本国家システムのモデルとなりました。曖昧なグレーゾーンを漂いながら、けたたましく財貨を吸い込み、吐き出し続ける日本のアジアでの立場をも象徴しているといえます。

本展覧会「"777"」は、違法廃棄で社会問題になっている廃材のパチンコ台を素材として使用した展示であり、精密な国家システム・モデルや財貨の循環、脆弱なシステムの延命による安心感等を、パチンコ特有の空虚な騒音や明滅によって表現するものです。

つきましては本展の告知活動に是非ご協力賜りますよう、ご案内申し上げます。

### ■本展に関する問い合わせ

アーティストイニシアティブ コマンドN(担当: 宍戸遊美)

事務所: 千代田区神田錦町3-9精興社1F プロジェクトスペースKANDADA内

tel:03-3518-6176 fax:03-3518-6177 E-mail:kandada@commandn.net

commandN 

## 伊藤 敦(Atsushi ITO)個展 「"777"」

### ■ 展覧会概要

伊藤敦(いとうあつし)個展「"777"」

開催日時: 2007年9月28日(金)～10月20日(土)  
12:00～19:00  
\*日・月・祝日は休廊

会場: プロジェクトスペースKANDADA  
〒101-0054 東京都千代田区神田錦町3-9精興社1F  
HP:<http://www.commandN.net>  
E-mail:[kandada@commandn.net](mailto:kandada@commandn.net)  
TEL:03-3518-6176 FAX:03-3518-6177

アクセス: JR線:御茶ノ水駅より徒歩20分  
営団地下鉄東西線:竹橋駅1b出口より徒歩3分  
都営三田線・新宿線、営団半蔵門線:神保町駅A9出口より  
徒歩3分

入場料: 無料

展示作品: 彫刻作品「"777"-Pearl-」シリーズ(2点を予定)  
彫刻作品「"777"-Flower-」シリーズ(3点を予定)  
インスタレーション作品「"7777777"」  
ビデオ・サウンド作品「耳鳴」「目眩」

主催: アーティストイニシアティブ コマンドN 

助成: 芸術文化振興基金 

協賛: 精興社 

### ■ 関連イベント

・オープニングパーティー 2007年9月28日(金)18:30～  
入場無料(ドリンク&フード有料)

・Powwow/039/伊藤敦  
アーティストを交えたトークセッション・演奏とパフォーマンス  
(※詳細はHPをご覧ください)

日時: 2007年10月19日(金) 18:30～21:00  
参加費: 1ドリンク&1フード付 一般1500円、学生1000円



彫刻作品「瘻撃」プレスのための参考写真  
素材: 廃材パチンコ役物・LED・アクリル他



「"777"-Pearl-」2007年  
素材: 廃材パチンコ役物・LED・アクリル他



ビデオ・サウンド作品「耳鳴」プレスのための参考写真

## 伊藤 敦(Atsushi ITO)個展 「"777"」

## ■作家プロフィール

## 伊藤 敦(Atsushi ITO)

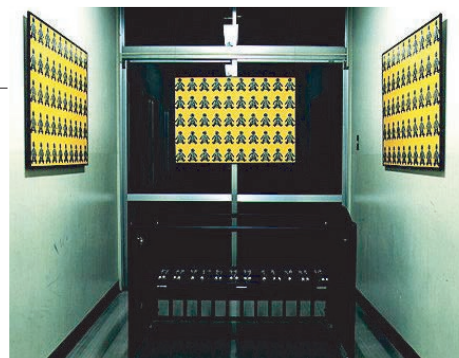
- 1962 広島県広島市生まれ
- 1983 多摩美術大学デザイン科グラフィックデザイン専攻 中退
- 1988 東京藝術大学美術学部工芸科彫金専攻 卒業
- 1990 東京藝術大学大学院美術研究科 修了
- 1990 通商産業省特許庁入庁
- 1994 特許庁審査第1部審査官
- 2004-2006 特許庁審判部審判官

「伝達」と、その「回収」をテーマに創作活動中。現在コマンドNのメンバーとしても活動、「秋葉原TV」「スキマ・プロジェクト」「東京ラビットパラダイス・プロジェクト」「KANDADA/ Project collective」展等の企画・運営に携わる。2001年に「万城目純個展 -世界のキメ-」をキュレーション。

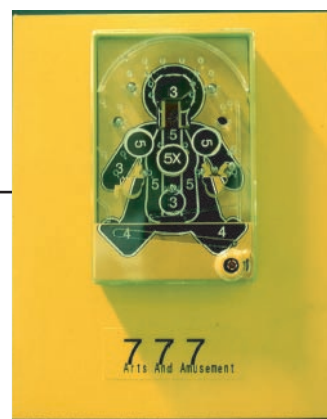
「BATTLE ROYAL BABYS」(1994):「遺伝」というものが何を伝達するのか、それは「永遠」であるのか、普遍的なものなのか。この作品の壁面に表したアイコンは射撃用のヒューマン・ターゲットの人型を赤ん坊にしたもので、手前の黒いベビーベットの上には染色体に模したスプーンが49本設置されている。

はじめて「パチンコ」を題材に作品を発表したのは1994年杉並区の公立中学校で開催された「IZUMIWAKU project~学校美術館構想展~」における「"777"学校美術館パチンコ店化構想」と「"777"花屋さんパチンコ店化構想」である。「"777"学校美術館パチンコ店化構想」はパチンコ遊戯を法律上で禁止されている中学生の学び舎である中学校に小型パチンコを展示することによって法律規制によって生まれる差異を表わした。以後「博多少年アート」「Manifest'94」「THINKING ABOUT EARTH」でも「777」シリーズを展開した。

「ブラッディ・ファイト・シリーズ"777"」:廃材パチンコ台の中にパチンコ玉の代わりに、透明チューブを通し血液を模した赤い液体を循環させる。これはパチンコ台を人体に見立てて表現したものであり、また国家における財貨の循環を模したものである。床には赤い布の上に天皇の家系図が描かれている。これは我々を取り巻くもう一つの巨大なシステムの象徴としての天皇制をあらわしたものである。子供の型をした標的(ヒューマン・ターゲット)は血族に脈々と流れ続ける遺伝子の脆弱さをあらわしている。しかしその脆弱な天皇家の遺伝子を日本国家何千年も大切に守り続けてきた。システムの延命による安心感をこの国の国民は欲しているのだろうか。この作品の設置空間では、パチンコ独特の騒音や明滅は排除され、微小なポンプ音が聞こえるのみである。それはシステムの延命の空虚さを表している。



BATTLE ROYAL BABYS 1994年



"777"学校美術館パチンコ店化構想 1994年



"777"博多少年アート 1999年



ブラッディ・ファイト・シリーズ"777" 1995年



ブラッディ・ファイト・シリーズ"777" 1995年

## 伊藤 敦(Atsushi ITO)個展 「"777"」

## ■ 展覧会歴

## ・個展

- 1993 「極薄の構造」アートギャラリーK2/ 東京、六本木  
 1994 「To Our Children's Children's Children」村松画廊/ 東京、銀座  
 1994 「To Our Children's Children's Children」ギャラリー+1 / 東京、銀座  
 2007 「"777"」プロジェクトスペースKANDADA/ 東京、神田(開催予定)

## ・グループ展等

- 1985 「第一回東京国際ビデオ・ビエンナーレ」朝日ホール/ 東京、有楽町  
 1987 「第一回国際映像音楽フェスティバル」パルコ劇場/ 東京、渋谷  
 「伊藤敦・小林幸喜 二人展」東京藝術大学中央棟/ 東京、上野  
 1994 「新宿少年アート」東京、新宿歌舞伎町全域  
 「博多少年アート」福岡、中州全域  
 「IZUMIWAKU project <学校美術館構想>展」杉並区立和泉中学校/ 東京、杉並  
 「Manifest'94」ラフォーレ原宿、清水湯、CLUB真空管/ 東京、原宿・青山  
 「THINKING ABOUT EARTH」芝浦GOLD/ 東京、芝浦  
 1995 「Morphe'95」ラフォーレ原宿、表参道路上/ 東京、原宿・青山  
 1996 「Morphe'96」AKI-EXギャラリー/ 東京、青山  
 「IZUMIWAKU project 1996」杉並区立和泉中学校/ 東京、杉並  
 1997 「ハイ・リラックス展」青山骨董通り路上/ 東京、青山  
 2000 「コマンドN展」SCAI THE BATHHOUSE/ 東京、谷中  
 「第二回国際シティビデオインスタレーション／秋葉原TV2」東京、秋葉原電気街全域  
 「スキマ・プロジェクト\_01」command N/□/ 東京、秋葉原  
 2001 「CNT」(NiCAF 2001 Tokyo)東京国際フォーラム/東京、有楽町  
 「東京ラビットパラダイス」(Tokyo Life)セルフリッジ/ ロンドン、イギリス  
 「スキマ・プロジェクト\_02」東京、秋葉原・神田・谷中地区  
 「東京ラビットパラダイス」(Neo Tokyo)シドニー現代美術館/ シドニー、オーストラリア  
 「第2回blank hunting展」京王線下高井戸駅商店街一帯/ 東京、下高井戸  
 「地雷展」FADs art space/ 東京、国立  
 2002 「国際共同美術展シティビデオインスタレーション／秋葉原TV3」東京、秋葉原電気街全域  
 2003 「DVD屋 展」Nadiff/ 東京、青山  
 「SUKIMA THE BATHHOUSE」SCAI THE BATHHOUSE/ 東京、谷中  
 「SHINXUS★multiple」Gallery TEZZ/ 東京、元麻布  
 2004 「Tokyo Rabbit Paradise at Careof Milano」Careof/ ミラノ、イタリア  
 「AUTONOM IST NOCH NICHT EINMAL DER MOND」ACCギャラリー/ ドイツ、ワイマール  
 「氷見クリック」阿尾漁港内 元漁師番屋/ 富山県、氷見市  
 「マダンTV\_\_千葉中央～」千葉市美術館、中央銀座商店街、栄町通り商店街、アートフロア/ 千葉  
 2005 「"アートの日"展」コマンドN／湯島もみじ/ 東京、湯島  
 「ビデオアートフェスティバル 氷見クリック2005」北大町海浜埋立地/ 富山県、氷見市  
 「KANDADA / Project collective\_commandN」プロジェクトスペースKANDADA/ 東京、神田  
 2006 「Tokyo Rabbit Paradise at Busan Biennale 2006: CAFE4 Video Project」  
 釜山ビエンナーレ：釜山市立美術館/ 韓国、釜山  
 「ヒミング・2006～ここだけの氷見／きこえる氷見～」潮風通り商店街、/ 富山県、氷見市

他展覧会多数

## ■ 参考URL

- 伊藤敦 WORKS <http://homepage1.nifty.com/A-ito/>  
 コマンドN <http://www.commandN.net/>